

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	関市西親子教室					公表日	令和 7 年 3 月 2 8 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	・ 乗り物や遊具など必要に応じて出し、広いスペースを確保できるようにしています。 ・ 発音の練習や面談に使用する部屋の利用状況を確認して使用しています。 ・ 給食室など利用者が多い場合は、前半・後半に分かれる、広いスペースを利用するなど工夫するようにしています。	・ 昨年度と同様に、各部屋の利用予定を朝会で確認しています。給食室など利用者数に合わせて臨機応変に対応していきます。 ・ 各部屋を利用しやすいように整えておきます。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	89%	11%	・ 利用定員に対する職員の配置数は適切ですが、療育を必要とする方が待機することがないよう、療育回数を調整して対応しています。 ・ 年度途中であっても会計年度職員を募集しています。	・ 次年度の通所見込の利用者数を予測し、年度始めに職員の確保に努めていきます。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	・ おもちゃ棚にイラストをつけて設置し探しやすくしたり、おもちゃを片付ける専用の場所を設置し片付けやすくするなど見直しました。 ・ 職員ごとに靴箱やロッカーなどを色分けし、文字がまだ読めない子どもでも分かりやすくしています。	・ 活動しやすい環境となるように、随時見直しを行っています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	・ 今年度より地域のシルバー人材の方に活動空間の清掃のご協力をいただいています。 ・ 活動空間の清掃、遊具・ドアノブなど手で触れた物を毎日消毒しています。 ・ 子どもの実態に合わせて遊具の配置やセッティングを行い、安全面も配慮しています。 ・ 子どもの特性や活動内容に合わせて、個別で活動できる個室と体を動かす活動ができる広い空間があります。	・ 今後も清潔で、心地よく過ごせる環境を維持するために、引き続き掃除や消毒を行います。また、療育終了後には子どもや保護者と一緒に片づけを行っています。 ・ 子どもの特性や活動内容に合わせて、職員同士で確認しあいながら環境設定を行います。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	・ 運動あそびや感覚統合遊具の使用ができる遊戯室・療育指導室のほかに、構音練習や個別指導を行う日常生活訓練室が 2 室あります。	・ こどもが利用しやすいように常に環境を整えいきます。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	・ 朝会や職員会で議題に挙げ、意見を出し合いながら考えています。	・ 議題や課題について、職員で意見を出し合い検討します。 ・ 行事や月予定の変更などの業務連絡においても、朝会や会議録を利用し職員に周知していきます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	・ 事業所評価のほかに、行事ごとの感想や年度末の療育アンケートで、保護者の意向を聞くようにしています。 ・ 評価の結果を職員全員で確認し、保護者の意向を共有しています。	・ 今後、検討が必要な課題がある場合は職員全員で意見を出し合い、業務改善に努めていきます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	・ 朝会や職員会で職員同士意見を出し合いながら考え、把握するように努めています。 ・ 業務に関する相談を児童発達支援管理責任者や職員同士で話しやすい環境作りに努めています。	・ 業務改善について、職員の意見を出し合い検討していきます。 ・ 今後も、職員同士が話しやすい環境作りに務めます。	

善	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	56%	44%	・第三者評価による外部評価は受けていませんが、運営委員会を年1回開催し、事業内容や課題についてご意見をいただいています。 ・指導方法研究会を行い、外部の意見をいただく機会を作っています。	・運営委員会を開催し、事業に関する課題を検討していきます。 ・感染症拡大の状況を見ながら、これまで行っていた指導方法研究会や行事に伴うボランティア、見学者の受け入れ等を行い、外部の方のご意見をいただきます。 ・清掃にご協力いただいているシルバー人材の方にご意見をいただいています。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	・外部の研修へ参加し、研修内容について朝会や職員会で報告しています。 ・職員間でケース検討会を行っています。 ・指導方法研究会を行い、講師の先生の助言や外部の方のご意見をいただく機会を作っています。	・研修を受けやすくするため、研修時間を確保しやすい環境作りや、次年度の研修予定や研修計画を立てていきます。 ・職員間のケース検討会の実施を増やし、資質の向上に努めます。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	・利用者が見やすいように拡大版を掲示しています。	・掲示してあっても見ていないという利用者がおられたので、支援プログラムの内容の周知に努めます。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%	0%	・半年に1回、保護者、担任、児童発達支援管理責任者で面談を行い、遠城寺式発達検査を実施し児童発達支援計画・経過について話し合いを行っています。 ・面談の前に保護者にモニタリングシートを記入していただき、親子のニーズを確認しています。	・子どもの捉えや理解を深めるために、アセスメントの実施、担当者会議、保護者との面談をする時間を計画的に確保するよう努めます。 ・保護者の方が読みやすい内容について検討していきます。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	・担任、児童発達支援管理責任者、相談支援専門員による担当者会議を行っています。	・子どもの捉えや理解を深めるために、ケース会議、担当者会議、保護者との面談をする時間を計画的に確保するよう努めます。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	89%	11%	・療育活動に入る前に支援計画を確認する、日々の記録を記入する際に支援計画を確認することを心がけています。 ・児童発達支援計画は職員同士が閲覧・確認できるようにしています。療育活動・行事の前に職員間で子どもの実態について報告しています。	・今後も、子どもの姿やニーズを把握するとともに、保護者の意向を聞きながら児童発達支援計画を作成、必要に応じて修正し、職員間で共有し計画に沿った療育を行います。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	89%	11%	・面談時に遠城寺式発達検査を実施する以外にも必要に応じてKIDS乳幼児発達スケール、新版K式発達検査、S-M社会生活能力検査、構音検査など諸検査を行い、児童発達支援計画に反映させています。 ・フォーマルなアセスメントと担任の療育時の記録を基に児童発達支援経過を作成し、面談時に保護者と確認しています。	・多方面から客観的に把握できる検査の利用の検討や子どもを理解するための職員の資質向上ができるように、今後も、外部講師による研修や圏域で実施されるアセスメントや発達支援に関する研修へ参加していきます。 ・今後も、インフォーマルなアセスメントとして、療育時の行動観察の様子を記録し、計画や支援に活かすようにします。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	・児童発達支援ガイドラインに沿った支援項目で児童発達支援計画を作成しています。支援目標に対する手立てについて担任と児童発達支援管理責任者で相談し、保護者に分かりやすい内容となるよう心がけています。 ・半年に一回の面談時に保護者のニーズと意向を確認し、児童発達支援計画の説明を行い、保護者の同意を得ています。	・今後も、児童発達支援ガイドラインのねらいを職員間でも確認しながら、利用開始時の説明に合わせて、一年に一度再確認できるよう努めます。また、保護者がわかりやすい説明の仕方を考えます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	・個別活動については、保護者や、療育時間・場所を共有する担任同士で話し合いをしています。 ・集団活動においては、事前にグループと担当係を決めて、話し合いをしています。	・今後も、個別活動と集団活動について、意義や活動内容、療育の方法など職員で話し合い情報を共有しながら計画していきます。

児童	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	・季節ならではのあそびや、運動あそび、伝承あそびなど、職員同士でアイデアを出し合いながら立案しています。 ・子どもが興味を持っている活動や経験したことのある活動とともに、制作やそり滑りなどコーナーあそびを設置することで、新しい活動も取り入れるようにしています。 ・朝会前の時間を利用し、職員で季節の歌や手あそび、伝承あそびを行っています。	・今後も療育の内容が固定化しないように、職員間の情報交換や子どもの興味やあそび方について、その都度見直しを行います。あそびの種類や、あそびの中で育まれる力について、職員間で意見交換する機会を作ったり、手あそび、リズムあそび、グループでのあそびなどの研修を行います。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	・子どもや保護者のニーズに合わせて個別活動を中心に、小集団での活動やクリスマス会、小学校区別、学年別などの集団活動や体験活動を計画しています。	・今後も同様に努めます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	・個別的療育については、個々の計画に沿って支援内容や活動について、事前に保護者や、療育時間・場所を共有する担任同士で話し合い、準備しています。 ・集団活動については、職員会や朝会などでその都度確認しています。	・事前の話し合いや準備時間の確保がしやすいように業務内容や勤務時間の使い方を検討していきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	・活動の終了後に、子どもの様子や関わり方など、職員同士で意見を出し合い振り返りを行っています。振り返りの内容を次の活動計画に活かすよう心がけています。 ・打ち合わせや振り返りに全職員が参加できない時は、会議録を確認できるようにしています。	・振り返りの時間の確保がしやすいように業務内容や勤務時間の使い方を検討します。 ・振り返りの内容を記録し、職員間で共有できるようにしたり、次の活動に活かせるようにしていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	・支援計画を確認しながら振り返り、その日の記録をとり、次の療育に活かせるようにしています。 ・毎年、記録の取り方について検討しています。 ・療育を通して見つけた子どものいい所など職員間で伝えあい共有しています。	・記録を書く時間の確保、記録の内容、書き方など、より改善できるよう見直ししていきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	・半年に1回、相談支援専門員の利用計画を参照し、モニタリングシートを保護者に記入いただいています。保護者、担任、児童発達支援管理責任者で面談を行うことで、児童発達支援計画の見直しを行っています。	・今後も面談を半年に1回行い、支援計画や療育内容の見直しを行います。 ・支援計画の作成が円滑に行えるよう、日頃の業務時間の使い方や記録の取り方など工夫します。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	・相談支援専門員より保護者からの聞き取りの内容を伺い、担任、児童発達支援管理責任者で子どもの実態について話し合っています。	・今後も子どものニーズや環境、保護者のニーズなどに合わせ、担当者会議のメンバーを検討していきます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	・保健センターの健診に参加したり、親子への対応について連絡を取り合っています。親子の状況に合わせて、家庭児童相談室、他の児童発達支援事業所と連携をとっています。 ・地域支援事業を利用し個別相談を行い連携しています。 ・医療機関等と連絡体制を整えています。必要に応じて、病院の受診時に同行したり、子どもの療育経過の報告書を作成し情報提供しています。 ・地域の子ども支援会議に参加しています。	・今後も連携が必要な関係機関や、連携の方法、内容等について検討していきます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	・保護者のニーズに応じて、並行利用できる事業所の紹介や手続きの説明を行っています。 ・保護者のニーズに応じて、園見学や就園前の相談・懇談、三者（保護者、園、学校、療育者）での引継ぎなど移行支援を行っています。	・通所児親子が安心して就園できるよう、今後も保護者のニーズに合わせて情報提供を行うことで関係機関に引き継ぎ、連携を行っていきます。

関係機関や保護者との連携	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	・保護者のニーズに応じて、学校見学や就学前の相談、懇談を行っています。また、子どもの実態について、学校、放課後等ディサービスへ引継ぎを行い、相互理解に努めています。 ・就学相談会や就学までの諸手続きの流れなどを保護者に紹介するなど、情報提供を行っています。	・安心して就学を迎えることができるよう、また学校生活が充実出来るように今後も引継ぎや情報共有を行います。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	100%	0%	・年2回実施している指導方法研究会で、地域の児童発達支援センターよりご意見をいただいています。 ・行事や研修など合同開催し、連携しながら助言を受けています。	・今後も地域の児童発達支援センターと連携を図り助言を受ける機会を作ります。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	100%	0%	・三歳以上児は地域の保育園、幼稚園に入園し一緒に活動する機会を持つことができています。 ・コロナ禍以降、5年ぶりに集団行事としてクリスマス会を実施しました。家族で参加していただき、通所児同士が交流する機会となりました。 ・公園、図書館などの地域資源の活用や療育時間の中で子ども同士の関わりが持てるよう支援しています。	・今後も、通所児以外の子どもと活動する機会を作るよう努めます。 ・地域資源を活用し交流しながら生活経験を重ねられるようにします。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	・活動の中で、必要に応じてその都度保護者に伝えたり、ノートや電話も利用しながら情報を共有するようにしています。 ・保護者と子どもの捉えを共有するためや保護者からの相談に応じて、話す機会や面談を設けています。	・親子に合わせた伝え方や、一方的な伝達にならないよう、どのような伝え方がよいのか、また、保護者の子どもへの思い、課題等について、どのように聞き取りをしていくことがよいのか、など検討します。 ・面談の時間の取り方の工夫や時間の確保に努めます。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%	0%	・保護者に療育や活動に参加していただくことで、子どもへの関わり方や対応の仕方など、その都度お伝えしたり一緒に考えるようにしています。 ・必要に応じて、他機関の研修、プログラムについて紹介しています。	・親子療育やペアレント・トレーニング等の家族支援プログラムについて、職員が知識を持ち、必要な療育や支援を考えていきます。 ・家族支援プログラムについて、保護者への情報提供の方法を検討します。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	・利用契約時に説明を行っています。 ・施設内に常時、掲示しています。	・今後も利用開始時の説明に合わせて、年度初めに再確認できるよう努めます。また、保護者がわかりやすい説明の仕方考えます。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	・半年に1回の面談時に子どものニーズ、保護者のニーズと意向を確認し、児童発達支援計画を作成しています。 ・療育活動を通して、子どもの捉えや関わりについて保護者と話し合ったり、保護者の話を傾聴するよう心がけています。	・今後も、子どものニーズや姿、保護者の思い、環境等を把握しながら、児童発達支援計画を作成します。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%	0%	・半年に1回の面談後に児童発達支援計画を作成し、説明を行なっています。面談時に確認した子どものニーズ、保護者のニーズと意向に沿っているか意見をいただき保護者の同意を得ています。	・今後も、面談時に確認した内容に沿った児童発達支援計画を作成し、保護者に説明の時間を設け、同意を得ていきます。

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	・半年に1回、保護者、担任、児童発達支援管理責任者で面談を行い、保護者の悩みなどを伺っています。 ・保護者のニーズに合わせて、面談の時間を設けたり、ノート、電話での対応や担任以外の職員も対応します。 - また、先輩保護者や関係機関を紹介するなどの支援を行っています。	・今後も、定期的に保護者との面談の機会を作り、相談に応じていきます。 ・保護者が相談しやすい雰囲気作りや職員との信頼関係作りを大切にしていきます。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	・親の会「えがお」の活動に職員もサポートに入り、保護者の活動を支援しています。親の会で作成している文集に職員も参加しています。 ・今年度は保護者同士の交流の機会を増やし、「お話し会」「先輩お母さんの話を聞く会」「施設見学」の共催や、行事の準備などを保護者とともにに行い、保護者同士の交流を支援しました。 ・コロナ禍以降、5年ぶりにクリスマス会を実施しました。家族で参加していただき、通所児同士だけでなく保護者同士、きょうだい同士、家族同士が交流する機会となりました。 ・通所児の療育活動に参加したきょうだい同士と一緒に活動したり交流する機会がありました。 ・親の会役員会の報告を掲示し、保護者に周知しています。	・今後も、親の会活動について分かりやすく、見やすい掲示を工夫したり、保護者とともに活動内容を考えるなど、親の会活動を支援していきます。 ・今後も、保護者同士の交流だけでなく、行事など家族同士が交流できる機会や方法を考えていきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	・必要に応じて、担任、児童発達支援管理責任者、相談支援専門員で連携して対応しています。 ・相談の申し入れがあった場合は、療育時間以外にも面談の時間をつくり対応しています。	・今後も、必要に応じて、保護者と話す時間を確保し相談に応じたり、相談をしやすい関係、担任以外の職員も含め、話しがしやすい関係を日頃から作っていきます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	・今年度より、保護者向けに連絡システム「すぐる」を活用して通信や行事について情報を配信しています。 ・月通信や行事報告、防災訓練実施報告、「ほけんだより」「図書だより」などを作成、掲示しています。保護者に声をかけてお伝えしています。 ・行事や体験活動などの活動内容を、プログラムや活動がイメージしやすい写真、イラストなどを用いて通所児に分かりやすいように事前に説明しています。	・今後も「すぐる」を活用した情報配信を行います。配信に当たり、保護者が見やすい、分かりやすい内容となるよう努めます。 ・行事予定を早めにお知らせしていきます。 ・掲示内容を保護者の悩み事や関心事に合わせて、担任から伝えます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	89%	11%	・児童発達支援利用契約書第7条-第3項に基づいて対応しています。 ・掲示物や配布物に写真を掲載する際、保護者に確認を取っています。 ・職員室での職員同士の会話が外に漏れ聞こえることがあるので注意します。	・今後も、個人情報の取り扱いに十分に注意します。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	・子どもの様子に合わせてイラストなどを利用し、見て分かりやすいように情報提供をしたり、活動の流れが理解しやすいよう、歌やダンスを取り入れるなど配慮しています。 ・必要に応じて、多言語で書類を作成したり、文字の拡大、口頭だけでなく書面にする、個別に説明するなど配慮しています。	・各職員が配慮している事柄について、職員間で情報共有し、意思の疎通や情報伝達のために何が必要か検討していきます。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%	0%	・地域の民生委員の方のボランティアの協力を得たり、施設見学の受け入れをしています。 ・運営委員会に地域の方や保護者に参加していただいています。 ・ザリガニ釣りやメダカ捕りなどの療育活動に協力いただく機会や散歩や公園あそび、図書館の利用などで地域の方々とふれあう機会を大切にしています。 ・地域の農家の方からいただいたお米を使って活動を行い、写真や感想を送って交流しています。	・感染症対策を行いながら、地域の方々との交流など、どのような活動が可能なのか検討していきます。

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	・ 事務所の方々の協力をいただきながら通所児親子と年3回火災・地震・土砂災害の訓練を行っています。 ・ ノロウイルス感染対策、不審者対策について、職員で研修、机上訓練を行いました。 ・ 実施した訓練や研修の報告を作成、掲示し利用者への周知を図っています。	・ 今後も、実施した訓練内容、各種マニュアル等を通所児保護者に周知するよう努めます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	・ 業務継続計画(BCP)を策定し、年1回職員で机上訓練及び計画内容の確認・見直しを行っています。	・ 今後も、業務継続計画の確認・見直しを定期的に行います。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	・ 来所時に体調の確認を行っています。 ・ 通所開始時に基本情報として、保護者に確認しています。 ・ 服薬は保護者に管理していただいています。	・ 基本情報の変更等がある時は、保護者から申告してもらい、面談で確認し把握していきます。 ・ 確認した内容について職員で共有します。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	・ 指示書は求めています。が、医師に確認した内容を保護者から伺い、その情報をもとに対応しています。職員全員で情報共有するようにしています。 ・ 給食での食事指導の際には、保護者と一緒に献立を確認しています。	・ アレルギーで通院している子どもについて保護者の意向を確認し、職員で共有するとともに、配慮することについて検討していきます。 ・ 飲食する場合は事前に保護者と職員で話し合い、調理員と連携を取っていきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	・ 安全対策訓練計画を策定し訓練・研修を行い、必要に応じて職員で検討・点検をし安全管理を行っています。	・ 今後も、安全対策訓練計画を基に訓練・研修を行い、安全管理に努めます。 ・ 職員でヒヤリハットの報告・共有を行います。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	・ 安全対策訓練計画を策定し掲示、説明しています。 ・ 緊急時の連絡方法や連携を取っている医療機関など、契約時に説明しています。	・ 安全対策訓練計画の掲示を分かりやすくし、年度初め、通所開始時に保護者に説明し、周知していきます。 ・ 遊具の使い方や活動への取り組み方など、安全に行えるよう、親子への安全指導の方法について職員で研修を行います。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	・ 毎月ヒヤリハットのアンケートをとり、職員会で報告して情報共有しています。また、事例について職員で話し合い、再発防止に努めています。 ・ 年度初めに、職員で危険箇所や注意が必要な場所や場面について確認しています。	・ ヒヤリハットの報告、事例集の共有を図るとともに、予防対策について職員間で検討していきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	・ 毎月のセルフチェックとその分析について虐待防止委員会を年4回行い、虐待防止の意識を高めるようにしています。 ・ 必要に応じて、家庭児童相談室など他機関と連携を取っています。	・ 今後も、職員全員が意識できるよう、定期的にセルフチェックと振り返りを行っています。 ・ 虐待防止研修に代表者が参加し、研修内容を報告、情報共有できるようにします。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%	0%	・ 必要な場面で、その都度保護者の意向に沿って対応しています。 ・ 虐待防止研修を職員間で行っています。	・ 身体的拘束について必要に応じて保護者と相談したうえで、児童発達支援計画に記載していきます。